

Voice 山のピンチ袋（非常用袋）

教育遭難対策部 富永

山行にはいろんな道具、装備、食料が必要ですが、イザと言う時に必要なのが「ピンチ袋」です。いろんな山行を経験してくると、いろんな場面で通常では考えられない場面に遭遇します。悪天、道迷い、装備の欠落、そして事故です。そんな時に頼りになるのが「ピンチ袋」です。私の経験から持参している「ピンチ袋」の内容を紹介いたします。また皆様のご意見もいただければと思います。

まず内容としては、生命維持に使用するものと、トラブル対応に使用する物に大きく分ける事ができます。前者として主な物は、アルミシート、ろうそく、ライター、非常食（ハチミツ、チョコレート、コンデンスミルク、ジフィーズ1食等）、ツェルトです。ツェルトは最近非常にコンパクトになり、私はアライテントのビバークツェルト・スーパーライト（写真1）を持参することがよくあります。これはこぶしよりやや大きいけれど、イザという時は二人が座って使用できるスグレ物です。後者としては、替え電池、細引き、三角巾、ナイフ、笛、保険証コピー、医薬品。山スキーの時にはこれに針金、ペンチが加わります（写真2）。電池に関しては、無線、カメラ、GPS等を単3に統一するようにしていますが、ビーコンが加わると単4電池も必要となります。また主に充電式のニッケル水素電池を残容量確認して使用しています。充電式電池に関しましては、ご興味にある方は別途ご説明いたします。

これらの物をジップロック二重で防水を施し、10cmX20cm程度のナイロン袋に収めています。夏ハイキングと冬山では内容も少し変わりますが、要はイザと言う時に必要な物を持つ、いらぬ物は持たない。なかなか難しい選択ですが、トラブルの内容を完全予想する事も不可能なので、山行毎に反省をして中身を厳選していくしかありません。いろいろ考えると重たい物になるし、軽量化のみを考えると必要な物がないという状態になります。

また非常食などが腐敗しないようにメンテナンスも必要です。賞味期限前でも袋に穴が開いてイザと言う時に使用できなければ、本当に命にかかわります。また非常時の緊急対応処置も、基本はやはり座学などで、実際に処置をして勉強する事が必要と考えます。



写真 1



写真 2